

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202762
法人名	株式会社みくに
事業所名	グループホームみくに松戸の園
所在地	千葉県松戸市栄町西5-1324
自己評価作成日	平成23年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104
訪問調査日	2011/2/24

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

23年度の目標
1. 尿失禁を減らして快適な生活を送って貰う。
2. 防災避難訓練 昨年度もこの件では評価を載しているが、今年もさらに行政からの支援、運営推進会議の有志のご参加、ご近所の町内会のご協力を戴くなど、日常的なつながりの中で、防災訓練の継続を行うこととしたい。
3. 入居者様と家族の声をケアに取り入れる。
4. 地域の繋がり(馴染みの関係の支援)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい」を理念に掲げ、①安心と清潔を与える介護、②生きがいづくりの介護、③出来ることはしていただく介護を方針としている。利用者調査の結果、“職員は、ホームの理念を理解し、具体的に実践しようとしている”との評価を得ている。ホームは個別の要望を重視し明治座での芝居見物、競馬の観戦、ラーメン店での食事、喫茶店での飲食に出かけることもある。そのほかユニットごとに大洗海岸などへの小旅行もし、人間関係や社会との関係を断ち切らないような支援をしている。また“スタッフは全員にこやかに気持ち良く働いていて良い雰囲気だ”との家族の評価に見られるように、職員は明るく優しく利用者へ接し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[自分にしてもらいたいことを人にもそのようにしなさい]という理念を掲げ、それに沿って実践しています。	新入職員の教育用キットの中にホームの理念と解説及び実践が詳細に記載され職員への浸透を図るホームの姿勢が窺える。また毎回職員の給与袋に個々の評価等のコメントが同封され職員に気付きを与えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は近所の店を利用し、夏祭りやバザーには近所の方に声をかけている。障害者施設の方にボランティアで参加して頂いたり、近隣の生産農家から野菜を提供して頂いています。	ボランティアの受け入れ、近隣の商店とのお付き合い、ホームの行事への招待、子供会で行う運動会への参加等、ホーム開設後5年を経過し近隣あるいは地域との相互理解・交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から施設見学申し込みへの協力を行っており、利用者の様子を見ながら、見学者に開放を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事などの報告の中で、地域とのかかわり合いに発展させていく方向で話しを進めています。	運営推進会議は自治会長、地域包括支援センター、介護相談員、家族等にホームの現状を説明し、次のステップに向けた目標を実現するため和やかな雰囲気の中で参加者から意見を聞き運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松戸市のグループホーム協議会に入会し、市の介護サービスの向上に協力しています。	ホーム長が事務局の役割を担っている協議会に市の担当者を招いていることもあり、いち早くスプリンクラーを設置する等、市の担当部署との協働関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に研修会に出席してもらい、研修結果を勉強会などを通し周知徹底と共有をしています。施錠については近隣、ことに堤防下道路の激しい交通量を考慮し、家族の同意を得て、施錠をします。	職員の研修会への出席記録、研修会の内容及びホーム内での勉強会等の資料が整っていて職員との共有を窺い知ることができる。施錠については交通量を考慮し、玄関は施錠しているが非常口を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を持ち、周知徹底を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに施設にも成年後見制度を利用されている方が入所されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れにより利用者様の意見をお聞きする機会を設けています。	家族等の意見、要望を運営に反映すべく、随時、家族等からの苦情や相談を受け入れるようにしているが、ホームに直接言いつらいことは月に二回出向いてくれる介護相談員に話をしてくれるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、フロアミーティングなどを通して職員の意見を吸い上げています。	職員の意見を運営に反映すべく、意見を出し易い環境作りに努めているが、ほかにもユニットごとのミーティングまたは全体のミーティングを通じて職員の意見を汲み上げている。福祉車両購入はその一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、賃金規定、退職金等の整備を行って、職員がモチベーションをもてるように工夫・努力をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひと頃から見ると少なくなったが、年に一度は職員には極力研修に活かせるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の施設見学会等で、職員を他の施設に行かせるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には利用者の自宅に話を聞きに伺ったり、施設に来て頂き、一緒におやつを食べて頂いたり、その方が安心できる環境と認識しなされるまで十分に時間をかけるよう配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学等はいつでも受け付けております。また相談事や電話での対応も、施設においてあるいは自宅でも、随時受け付けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めには複数のケースを知って頂くことも大切と考え、当方以外の施設見学への協力、あるいは施設やサービスの紹介なども行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る」利用者様と調理や掃除を一緒に行うことで学ぶことが多々あり、共に安心して生活する関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子をその都度伝え、ケアへの協力をお願いしています。またご家族が参加できる行事=夏祭り・旅行・バザー・クリスマス会などを行って、共に楽しんで頂く機会を提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事などのお便りをご家族以外にもお届けしたり、美容院や馴染みの場所へのお出かけの支援もしております。	個別の要望で明治座での芝居見物、競馬の観戦、ラーメン店での食事、喫茶店での飲食に出かけることもある。またユニットごとに大洗などへの小旅行もし、人間関係や社会との関係を断ち切らないような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出も、気の合った同士で行ける配慮をしたり、車椅子利用者様への世話を望む方への配慮など個々の利用者様の気持を尊重し、利用者様同士が支えあう関係作りも大事にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様やそのご家族は、今でも行事へのご参加、ボランティアとして来所して下さるなど、施設へのご支援を頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は大切だと考えています。言葉では言えない方の気持ちの受け止め、何かひとつでも求めることがあればやってあげようと、工夫をする必要があります。	“スタッフは全員にこやかで気持ち良い雰囲気だ”との家族の評価に見られるように、職員は明るく優しく利用者へ接し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。またこれらは勉強会の資料として整っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの背景の把握は大切な作業なので、これらのなるべく正確な把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン作成の柱でもあるこれらの事象を、正確に把握するため、職員と共に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体介護を必要とする利用者様の家族から、評価を頂いています。軽度の利用者様ご家族との理解等の温度差があるので、面会時などに理解を深めていただく努力が今後も必要です。	介護計画は設定期間ごとの見直しを建前としているがアセスメントとモニタリングの結果及び家族の要望により随時に変更され、それら計画変更は家族の理解を得るとともに、記録は整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にセンター方式を採用していますが、個別記録などに独自の工夫もあります。見直しや評価への家族の同意を得る際の情報の共有も行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	段階ごとの介護への実践に注意を注いでおります。利用者様の状態に沿ったケアを求め、スキルの多様化、研修の必要性など、必然的に職員とともども多機能化が実践されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政からの情報を含め、地域資源の把握と活用を心がけている。しかしホーム事業との相乗効果上がる具体的方法が把握しきれないでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に2回の診療と24時間対応を受け止めてくれる診療所に恵まれています。あおぞら診療所などの協力を得ながら、利用者様の健康維持を進めています。	あおぞら診療所は車で10分位で利用者の急な病気にも対応があり、利用者・家族にとって心強く、全利用者が診察して頂いている。歯科も同様で近隣から来て頂き、口腔ケア、入歯の管理等もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションについては特定の利用はしていません。しかし重度化を想定した関係作りなどが大切と考えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院はもちろん、日常的な医療機関との関係作りを重要と考えています。何より利用者様の混乱を取り除き安心して治療できる環境を整えることも大切と考え、協働関係を作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、入所時に申し込んでいただくなど、家族とホームとの協働効果を必要と考えます。ただし延命処置等を望まれる場合には退所をお願いすることになっています。	診療所からの訪問医の協力の基にこれまで3人のターミナルケアを行っている。利用者家族の協力も欠かせないが、ホーム長、職員の努力、そして温かさを感じ、それらの家族は納得しており、感謝をしている様子が窺えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の場合の初期対応や救急究明処置の訓練など、研修として行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の避難訓練を実施している。地域消防団との訓練も効果が大いと感じている。また月1回は消防署から訓練に来てもらっています。	月に1回、消防署の指導のもとで、近隣の方々や民生委員や運営推進会議の有志の方々、職員とで通報訓練、消火訓練、更に利用者の誘導をも含めた避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームにおける大切な機能と位置づけ、職員と共に研修を中心に行い、徹底させております。	職員は利用者の人格を尊重し親しみの中にも敬意を払い丁寧な言葉掛けをしている。また衣類の着替えや、入浴時などにも配慮し、他人の目に触れぬよう各利用者の尊厳維持を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々のペースを尊重し、自己決定できるよう心がけて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースで過ごしていただくなど、状態に寄り添う支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい装いに近づけるよう、さりげなく支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回をオリジナルメニューデーとしており、メニューを作る支援、その食材の購入に出かける支援、調理をし、一緒に食べるなど、食べる楽しみと調理し提供する楽しみなどを味わって頂いています。	月2回、利用者ど職員で料理作りを楽しむ日を設けている(オリジナルメニューデー)全員で楽しめる様、コロッケ作りなどが多いが、様々の形のもので出来、それらを食べる事は賑わいがあり利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養より、美味しく快く食べて頂くことを大切にしています。インとアウトの水分量のチェックを行っています。高い調理技術の職員の下で、心がこもった食事を取って頂くよう心がけております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	慎重な自立支援による介護度の軽減化があります。平均介護度2.6～2.7が、介護度1.9～2.0と軽度化しています。さらに尿失禁の回数の軽減化も実現できております。	レベルに応じた自立支援を行い、各利用者の排泄記録を基に利用者ごとに定時誘導を行い、出来るだけ失禁を減らし介護度の軽減化を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は飲料や食事などで予防をし、薬などには頼らない手法をとっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回をめぐり、強要しない入浴を楽しんで頂いています。足浴は必要な時に行い、週一回は夜間入浴も行い、就寝前の効果も期待しています。	利用者の希望で毎日の入浴も可能であるが、19時からの夜間入浴も実施している。利用者の睡眠を視野に入れ、利用者が喜ぶなら施設の理念に基づき実施する職員の優しさと努力を感じる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の体調や生活リズムを把握し、安心して眠って頂けるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	作用等が確認できるよう、記録にファイルし、服薬支援を必要とする利用者様ごとの収納引き出しを設けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単純な毎日にならないよう配慮し、職員も一緒に楽しみながら、さりげない支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ全ての利用者様が歩行できるよう、散歩を欠かしません。また食材等の買い物にも参加してもらっています。誕生日には喫茶店に出かけることもあり、画一的にならないよう配慮しています。	毎日20～30分の散歩を基本に、買い物のための外出など出来るだけ外に出よう心掛けている。利用者の年に1度の誕生日は利用者の希望を叶える日としており、当利用者の希望で全員で回転寿司やラーメンを食べにいたりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱いは利用者様ごとに違いがあり変化もありえるので、預かり金からの精算を月ごとに行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な楽しみでもあるので、出来る限りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの空間作りをしています。色調も明るく解放感を感じていただける配慮をしています。また共用空間には転倒防止を考え、ソファー等の家具以外、物を置かないよう配慮しています。	共有空間である廊下は広く、リビングは眺めも良く全利用者が座れる大型のソファが置かれている。車椅子が動き易い様に、また利用者の転倒防止のためその他は何も置かず滑ることなど無い様に、掃除にも気を使ってる様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の付き合いがあれば、それを尊重するよう配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものは大切と考えています。、使い慣れた家具等を持って来て一日も早くこの施設に馴染んで欲しいと思っています。	利用者居室には、使い慣れた家具等を持ち込むなど、自宅との環境に出来るだけ差が生じない様、工夫をしている。部屋の管理は自立している利用者以外は職員が行うが掃除は利用者と共同で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気の合う利用者様同士も勿論、一人ひとりの思いを生かせる配慮など、個々の利用者様の気持を尊重し、利用者様同士が出来るだけ自立した生活が送れるよう、工夫した支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容